

駅から ぶらり旅

文＝伊藤哲也
写真＝亀井川 英樹

風

は緑に、陽は金色に輝く季節がやってきた。ふだんはあまりエクササイズに乗り気ではないが、涼やかな風と明るい日差しのもとでなら、腕にも脚にも思い切り負荷をかけてみたくなる。



白樺並木の向こうには広大な農地が広がっている。

帯広駅北口のバスターミナル内にある「エコバスセンターりくる」には、シティタイプ、スポーツタイプ各種のレンタルサイクルが用意されている。ここで電動クロスバイクを借りた。目的の地は帯広の隣町・幕別町の丘の上にある十勝ヒルズ。片道およそ十キロの距離である。地図をしつかり頭に入れ、



帯広駅

◎ 第二十三回 帯広駅

十勝ヒルズに至る最後の坂道。緑を背景にペダルを漕ぐのも爽快だ。



目印となる緑ヶ丘公園、真鍋庭園、愛国大橋などを經由して、田園地帯へと軽快に走り続ける。北愛国交流広場の近辺（北愛国基線）では、整然と並んだ白樺の並木のかたわらを走り抜けた。

吹く風が、胸の中まで洗ってくれるようだ。「十勝バス愛国1号」のバス停を目印に左折し、細い農道の坂を上がっていく。途別川を渡る手前から、もう幕別町だ。途別小学校、途別神社を通り過ぎて、カーブの多い

●エコバスセンターりくる／帯広市西1条南12丁目帯広駅バスターミナル内 ☎0155-23-5920。9:30～17:30、期間内無休（今年は4月26日から11月30日）。多彩なタイプの自転車をレンタルしている。シティサイクル（300円/1時間）、電動自転車スポーティタイプ（500円/1時間）、マウンテンバイク（2,000円/4時間）、電動クロスバイク（2,800円/4時間）など。詳しくは問い合わせを。

急な上り坂へ。電動アシストを最強モードにして、無事上りきった。十勝ヒルズは庭園面積およそ五畝の観光ガーデン。並木道やボーダーガーデン、ボタジエ（菜園）など、多彩なエリアで構成されており、春から秋まで季節ごとの花や緑が楽しめる。取材時には



十勝ヒルズのガーデンの一角。白と黒のチューリップの配色がシックだ。ホスタなどの宿根草も、小径を彩る。



(左)チューリップの彼方に帯広の市街を遠望する。園内をのんびり歩くと、1時間から1時間半。(右)池にはスイレンの花が静かに浮かんでいた。●十勝ヒルズ／中川郡幕別町字日新13-5 ☎0155・56・1111。9:00～17:00、期間中(4月中旬～10月中旬)無休、大人1,000円(年間パスポート1,200円)。ショップでは植物や園芸グッズも販売している。



ランチの「NIWAKARAプレート」(1,300円)。厚切りのトーストにたっぷりのサラダ、柔らかく焼いた豚肉、ポテトサラダが付く。NIWAKARAは10:00～17:00、無休。メニューはプレートランチ、ピザ、パスタ、ドリンクなど。

チューリップが満開で、池にはスイレンの花も浮かんでいた。ご案内いただいたスタッフの方によれば「九月まで、ローズガーデンが見頃です。香りのよいバラ、約三十品種八百株の花と香りの共演が楽しめます」とのこと。

園内にあるNIWAKARAは、大きなガラス窓が開放的なガーデンカフェだ。ランチプレートとアイスコーヒーでしばし休憩し、再び帯広駅へ。途中、「朋の湯温泉」でゆったり

りと体を伸ばし、汗も疲れも洗い流した。

ビ ジネスホテルに荷物を下ろし、夕暮れの繁華街で「串バーOHANA」のドアを開ける。店主の松村英樹さんは串焼きの店で修業した後、独立して十六年目。備長炭で焼き上げる串焼きは、どれも肉が大きく、ボリューム満点。表面はこんがり、中はジュシーで肉のうまみが凝縮され



1.地鶏たたきを調理する店主の松村さん。真剣そのもの。2.松村さんお薦めの1つが伊達市から仕入れる鶏レバー。甘みとコクのあるタレで。3.馬刺しとわらびのたたき(緑の小鉢)は、すっきりとした福井の地酒「梵」(純米酒)で。4.いい色に焼きあがった薩摩地鶏のたたき。しっかりした肉質で味わい深い。ビールによく合う。



「技術がないので、肉を大きくしているだけ」と英樹さんは照れ笑いするが、謙遜だろう。どの一本も食べ応えがあるので、少しずつ注文して楽しむのがよさそうだ。

串以外にも、炎を上げて焼き目をつける薩摩地鶏のたたきは、歯ごたえよく、香ばしい。柔らかく甘みのある馬刺しも日本酒によく合い、堪能した。帯広は昼もいいが、夜もいいのである。

翌

朝、緑ヶ丘公園の中にある帯広市児童会館を訪れた。

二階に「広小路」の様子を再現したジオラマがある。これが見事だった。目を近づけると、車の音や行き交う人々の会話まで聞こえてきそうな気がするほど、リアルなのだ。



昭和の帯広駅前の喧騒が、聞こえてきそうだ。夢を見ているのか、魔法にかかったのかと、思っても不思議ではない(帯広駅のジオラマの一部をアップで撮影)。



看板の文字も、車のスタイルも、人々の服装も、かつて歩いてきた町の風景が、突然目の前に現れるようだ(広小路のジオラマの一部をアップで撮影)。

●帯広市児童会館／帯広市緑ヶ丘2 ☎0155・24・2434。
9:00～17:00、月曜・年末年始休(月曜が休日の場合は開館)。
※11月～3月は休日の翌日休館(ただし、土日の場合は開館)。

ジオラマは幅約二百二十センチ、奥行き約四十センチ、高さ約二十五センチの大きなもの。職員の須賀研介さんによると「おおよそ昭和五十年頃の様子を再現していると言われています」。

制作者は中川忠さん(中札

内村在住)で、令和四年に帯広市に寄贈された。ほかに西一条、西二条、帯広駅を再現したジオラマがあり、時々展示を入れ替えている。これらすべてを展示するイベントを開いた時には、「半世紀以上に児童だった方が大勢見えます」(須賀さん)という。皆さん、熱心に見つめ、「昔は確かにこうだった」とか「あんなことがあった」と、話に花が咲くそうだ。

児童会館からの帰り、公園内の「野草園」に立ち寄った。ここには



新緑の森を清楚に彩るオオバナノエンレイソウ。明るい落葉広葉樹林の林床に自生する。

◎源泉かけ流しの温泉銭湯「朋の湯温泉」

透明感ある珈琲色のモール温泉で、源泉かけ流しにしている。1981年に温泉を掘り、地下1,350mからくみ上げている。とろみのある湯はややぬるめで、ゆったりと長湯が楽しめる。

●帯広市西11条南15丁目4 ☎0155・24・1238。13:00～23:00、月曜休、大人490円。

主浴槽、泡風呂、水風呂の3種類。サウナは提供していない。



三百種類を超える植物が自生している。原生に近い植物相が維持されており、十勝原野の原風景を残している。歩いた時には、群生しているオオバナノエンレイソウが満開を迎えており、その清々しい白さが目の奥にそっと忍び込んでくるようだった。

J